

# 自衛隊看護師 大阪と旭川へ

## 新型コロナ人手不足深刻

政府は、新型コロナウイルス感染症の患者急増により医療従事者の人手不足が深刻化している北海道旭川市と大阪府に、自衛隊所属の看護師を派遣する方向で調整に入った。自治体側から正式な要請があれば速やかに派遣を決める方針だ。

▼2面=逼迫、27面=病院に協力金

菅義偉首相は7日の政府

- ・与党連絡会議で「重症者向けの病床が逼迫し始めており強い危機感をもつて対応する。自衛隊を直ちに派遣できる態勢を整えており、政府として最大限の支援を行っていく」と述べた。西村康稔経済再生相も同日夜の記者会見で「北海道、大阪と、防衛省・自衛隊との間で事務的な調整が

されている」と話した。

防衛省によると、医療機関に対する自衛隊の看護師の派遣が実現すれば、8月18～31日の沖縄県内に続く

コロナ感染者用の病床使用率は全国が31・1%に対して、北海道は52・7%、大阪府は57・6%。特に大阪府は重症者用の病床使用率が61・5%と、全国の14・9%の4倍を上回る。

北海道内でも特に懸念されるのが旭川市で、病院や障害者施設など計8カ所での派遣が実現すれば、8月18～31日の沖縄県内に続く

ある。

同市によると、自衛隊から1チーム5人の看護師ら医療スタッフが2チーム・計10人入り、市内の病院で2週間、患者の治療支援にあたることで調整中という。西川将人市長は「自衛隊派遣は最後の手段と考えていた」と語った。

大蔵省によるところ、医療機関に対する自衛隊の看護師の派遣が実現すれば、8月18～31日の沖縄県内に続く

クラスター（感染者集団）が発生。同市の対策本部が7日、道を通じて自衛隊に災害派遣を要請することを決めた。国立感染症研究所の専門家や厚生労働省のDMAT（災害派遣医療チーム）も医療機関を支援してきたが、限界に近づきつつ

政府が自衛隊派遣を検討するのは、全国で感染者数が増えるなかでも北海道と大阪府の医療提供体制が苦しいためだ。内閣府の資料によると、6日時点の新型

# 感染急増 看護師逼迫

災害派遣による自衛隊派遣の枠組み



大型クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号(奥)が停泊する大津駅から出る自衛隊の車両=横浜市

## 時刻

新型コロナウイルスの感染拡大地域で医療現場の人手不足が深刻になり、政府は北海道旭川市と大阪府に自衛隊所属の看護師を派遣する方向だ。各地の自衛隊病院でコロナ患者を受け入れている実態もあり、「無尽蔵には対応できない」との声も上がる。▼1面参照

「医療機関でクラスターの発生が相次ぎ、市中感染も広がっている。このままでは医療体制が崩壊する恐れがあり、自衛隊から看護師を派遣してもらいたい」

道に対し要請した。午後に記者会見した北海道道

旭川市の西川将人市長は要請の理由をこう述べた。午後に記者会見した北海道道

道に対し要請した。

11月6日、重篤な高齢者

が多く入院する吉田病院

(2663床)でクラスター

が発生し、同病院で入院患

者や職員に一気に感染が広

がった。旭川では五つの基

幹病院がコロナ患者を受け

入れていたが、11月下旬に

は基幹病院の一つ、旭川厚

生病院(499床)でもクラ

スターが発生。さらに障

害者が急増していたが、危

機に陥ったのは、多くの病

床を抱える市内の病院での

クラスターが発生。さらに障

害者が急増していたが、危

機に陥ったのは、多くの病